

## 助成事業の概要

### 1. 事業名

世界遺産を守ろう 東大寺秘密発見ツアー 現地学習会

### 2. 目的

平成 21 年 10 月 10 日になら 100 年会館で開催するチャリティオーケストラコンサートの関連事業。このコンサートは、財団法人奈良市文化振興センターの主催、日本財団の助成により開催し、「世界遺産学習」と「小学生のためのオーケストラ音楽教育プログラム」を兼ねた事業である。今回の現地学習会により世界遺産への正しい知識と認識を持ち、自分たちの街にある世界遺産への理解を深め、多くの方々にチャリティにご参加いただき、世界遺産を守り伝えていく意識を高めることを目的として実施する。

### 3. 事業内容

①日程：平成 21 年 9 月 12 日（日）10：00～11：00

②参加者：46 人（このうち小学生 19 人）

③場所：東大寺境内

④講師：狭川普文師（庶務執事）

小学生と保護者ら 50 名ほどが参加し、東大寺庶務執事の狭川普文さんに奈良時代から続く道がどのように守られてきたかを説明していただいた。

東大寺中門から出発し、その後大仏殿西側の川や池の跡地等 3 箇所を巡りながら、東大寺の景観保全や環境整備についての現状をお話していただいた。

東大寺では景観保全のために植樹を行ったり、石を川底に敷き詰める時は自然になじむ色のものを選んだりしている。

環境整備について、県がテロ対策としてゴミ箱を撤去したが、東大寺ではごみを持ち帰らない人が多くいるため、独自にゴミ箱を設置している。また、酸性雨によって木が枯れ、山の保水力が落ちているため、雨天時の対策として中門付近の溝の幅及び深さを倍の大きさにした。その他、鹿の排泄物の処理や鏡池の清掃等を頻繁に行なっている。

一方で、東大寺では多くの文化財を保有しており、未だ発見されていない遺物が地中に残されている可能性があるため、環境整備をするにも多くの書類を作成し、許可が必要となる。そのため、公衆トイレを作ったり、バリアフリー化を進めたりすることは容易ではない。

狭川さんは、「どこの国にもいろんな人がいます。平気でゴミを捨てたり、池を汚したり。それをどのように防ぎ、守るのか。それはオブラートを重ねるように地味な作業を積み重ねる気持ちが大切です。多くの書類を作成し、許可をとり、作業を進めることはとても大変ですが、その気持ちを失い劣ると、ひどい災害や事故に結びつくのです。ゴミを捨てる

人も、その気持ちをどこでくい止めるか。それをくい止めるのはオブラートを重ねていくという人々の気持ちです。」とお話をして下さった。

今回ツアーを通して、普段は見過ごしてしまうような所でも、観光客が気持ちよく参拝できるよう日々力を尽くされていること、そして世界遺産を守っていく大変さを参加者に知っていただいた。実際に道を歩くことで、奈良時代から現代に続く歴史の流れを感じ、自分たちで文化財を守り、大切にすることを意識してもらいたい。



中門の前で集合



狭川普文さんの案内で出発



ときに冗談も交えながらのわかりやすい説明を熱心に聞く参加者の皆さん



景観を崩さないよう整備された川



奈良時代から続く道



翌日の新聞報道